

# 曾孟樸研究資料目録

## 清末小説研究会

### 凡 例

- 1 本稿は、Ⅰ編著訳目録、Ⅱ文献目録およびⅢ附録で構成される。
- 2 Ⅰ編著訳目録 作成にあたっては、曾虚白「曾孟樸先生年譜(上)(中)(下)」(『宇宙風』第2～4期)、成宜済『孽海花研究』、李培徳著陳孟堅訳『曾孟樸的文学旅程』「曾孟樸先生著作及訳文」を参考にした。
- 3 Ⅱ文献目録 A記事・論稿(中国語その他)、B記事・論稿・翻訳(日本語)、C文学史・事典(中国語・日本語の順)で構成される。中島利郎「雑誌所収清末小説関係文献目録(初稿)」(『啞啞』第4号)を参考にした。
- 4 \*印を附したものは未確認である。
- 5 < >は編者が便宜的に附したものである。
- 6 Cの文学史・事典については、目についたものを一応採取したにすぎない。
- 7 Ⅲ附録の「編者の一点小意見」「編者一個忠実の答覆」「病夫日記」はいずれも1920年代の文章である。清末小説研究ではあるが、ふたつの時代を生きた曾孟樸を研究対象とする場合、これらの文章は見逃すことのできない意味をもっている。当用漢字を使用したほか、すべて原文のままである。
- 8 雑誌『真美善』は京都大学所蔵、雑誌『宇宙風』は京大人文学研究所所蔵天理大学所蔵のものによった。
- 9 『孽海花』の版本については、鳥居久靖「『孽海花』の版本」(『天理大学学报』第39輯1962)が詳しいので、それを見られたい。

### Ⅰ 編著訳目録

*未理集	(詩集 定名而未及整理出版之資料)	1890以前
*推十合一室文存 二卷	(駢散文集 定名而未及整理出版之資料)	1890以前
*執丹瓊語 二卷	(読書札記 定名而未及整理出版之資料)	1889
*羌無集	(詩集 定名而未及整理出版之資料)	1891・92

- \*雪曇夢院本 四卷 (紀念円珊夫人崑曲体裁的劇本) 1891  
上海真美善書店 1931
- \*歷代別伝 四卷 (考証) 1892—1900
- \*响沫集 (詩集 定名而未及整理出版之資料) 1893・94  
補後漢書芸文志(一卷)並考証(十卷) 1895  
『二十五史補編』第2冊\*上海開明書店 1934・35  
北京中華書局 1956
- \*『博物大辞典』 和徐念慈共編  
上海宏文館? 1897
- \*毗網集 (詩集) 1897・1900
- \*吹万頌文録 二卷 (為論法蘭西詩法、詩史及詩之派別源流之鉅製 定名而未及整  
理出版之資料) 1900—16  
〈奉題金洞仙史田端別墅即次胡山翁原韵〉  
摛齋曾樸 金井雄編『三嶽莊唱和編』 1904. 9. 25  
『孽海花』一・二編全20回  
東亜病夫 \*上海小說林社 1905
- \*影之花 法嘉綠傳蘭儀 競雄女史訳 東亜病夫潤  
上海小說林社 1905. 六月
- 歷史  
小說 孽海花 卷十一第21・22回  
愛自由者發起 東亜病夫編述  
『小説林』第1期 1907. 正月
- 歷史  
小說 孽海花 卷十二第23・24回  
愛自由者起發 東亜病夫編述  
『小説林』第2期 1907. 二月
- 歷史  
小說 孽海花 卷十三第25回  
愛自由者發起 東亜病夫編述  
『小説林』第4期 1907. 六月
- 無題/天津道中夢嚙二首/題東隣巧笑因為江建霞標作(詩)  
東亜病夫 『小説林』第4期 1907. 六月
- 結客少年場行贈黃珊/八月九日偕樵孫雪瑞隱南譙仲泥飲木彌齋中醉後作歌/虎阜晚歸  
(詩) 東亜病夫 『小説林』第5期 1907. 七月
- 纂大仲馬伝脱稿後即書其後並題小像  
東亜病夫 『小説林』第5期 1907. 七月  
阿英編『晚清文学叢鈔 小説戯曲研究卷』  
中華書局 1960. 3
- 大仲馬伝(文学家乘) 東亜病夫 『小説林』第5期 1907. 七月  
馬哥王后佚史 法国大仲馬(大デュマ)著 東亜病夫訳述

『小説林』第11期

1908. 五月

馬哥王后伏史

法国大仲馬 (大デュマ) 著 東亜病夫訳述

『小説林』第12期

1908. 九月

蘇格蘭独立記 卷三 二十八回

女士陳鴻璧訳 東海覺我潤辞 病夫贅語

『小説林』第12期

1908. 九月

常昭教育会公祭徐先生文

曾樸

『小説林』第12期

1908. 九月

\*『九十三年』

Quatrevingt-Treize

ユゴー

曾樸訳

有正書局

1913. 10

上海真美善書店

\*『銀瓶怨』

Angelo

ユゴー

東亜病夫訳

『小説月報』第5卷第1~4号

1914. 4~7

→『項日楽』

上海真美善書店

1930. 4

梟歎

Lucrece Borgia

ユゴー

東亜病夫編訳

\*有正書局

1916

阿英編『晚清文学叢鈔 域外文学訳文卷』第4冊

北京中華書局

1961. 9

上海真美善書店

1927. 9

→\*『呂克蘭斯鮑夏』

\*『呂伯蘭』

Ruy Blas

ユゴー

曾樸訳

上海真美善書店

1929. 9

\*『欧那尼』

Hernani

ユゴー

曾樸訳

上海真美善書店

1927. 9

\*『夫人学堂』

L'Ecole des Femmes

モリエール

曾樸訳

上海真美善書店

1927. 9

編者の一点小意見

病夫

『真美善』第1卷創刊号

1927. 11. 1

魯男子 序幕

東亜病夫

『真美善』第1卷創刊号

1927. 11. 1

孽海花 第11卷第21回

東亜病夫

『真美善』第1卷創刊号

1927. 11. 1

夜宿翁司農第, 第中白鶴綠龜各贈以詩

籀齋

『真美善』第1卷創刊号

1927. 11. 1

碧莉梯牧歌

法<sup>ドモルタルニス</sup>辺勒魯意訳

病夫識重訳

『真美善』第1卷創刊号

1927. 11. 1

論法蘭西悲劇源流

病夫

『真美善』第1卷創刊号

1927. 11. 1

鴉片煙管 (短篇小説)

法<sup>ゴッテ</sup>国戈恬原著

東亜病夫訳

『真美善』第1卷創刊号

1927. 11. 1

女性的交情 (短劇)

法<sup>G. クールトリエ</sup>国顧岱林著

病夫訳

『真美善』第1卷創刊号

1927. 11. 1

魯男子「恋」1	東亞病夫	『真美善』第1卷第2号	1927.11.16
孽海花 第11卷第22回	東亞病夫	『真美善』第1卷第2号	1927.11.16
論法蘭西悲劇源流(統)	病夫	『真美善』第1卷第2号	1927.11.16
希臘碧莉娣牧歌(統)	ビエール・ルイス 訳	病夫重訳 『真美善』第1卷第2号	1927.11.16
魯男子「恋」2	東亞病夫	『真美善』第1卷第3号	1927.12.1
孽海花 第12卷第23回	東亞病夫	『真美善』第1卷第3号	1927.12.1
論法蘭西悲劇源流(統)	病夫	『真美善』第1卷第3号	1927.12.1
希臘碧莉娣牧歌(統)	ビエール・ルイス 訳	病夫重訳 『真美善』第1卷第3号	1927.12.1
燕	ビエール・ド・ロンサール 詩選	病夫訳 『真美善』第1卷第3号	1927.12.1
贈宗仰上人二首／寄懷沈北山	摛齋	『真美善』第1卷第3号	1927.12.1
穆理哀的女兒	病夫	『真美善』第1卷第3号	1927.12.1
哥德的綠蛇	病夫	『真美善』第1卷第3号	1927.12.1
卷頭語	病夫	『真美善』第1卷第4号	1927.12.16
編者一個忠實的答覆	病夫	『真美善』第1卷第4号	1927.12.16
魯男子「恋」3	東亞病夫	『真美善』第1卷第4号	1927.12.16
孽海花 第12卷第24回	東亞病夫	『真美善』第1卷第4号	1927.12.16
題江建霞標東隣巧笑圖	摛齋	『真美善』第1卷第4号	1927.12.16
高耐一的女兒	病夫	『真美善』第1卷第4号	1927.12.16
呈李忌伯師／山塘晚步	摛齋	『真美善』第1卷第4号	1927.12.16
戈雄特曼大(短劇)	法国顧岱林 著	病夫 訳 『真美善』第1卷第4号	1927.12.16
試卷被墨汚投筆慨然題二律	摛齋	『真美善』第1卷第4号	1927.12.16
*『阿弗洛狄德』 Aphrodite	ビエール・ルイス 著	病夫 訳 上海真美善書店	1927
——→*『肉与死』		上海真美善書店	1930
卷頭語	病夫	『真美善』第1卷第5号	1928.1.1
魯男子「恋」4	東亞病夫	『真美善』第1卷第5号	1928.1.1
孽海花 第12卷第25回	東亞病夫	『真美善』第1卷第5号	1927.1.1
『孽海花』(改訂版) 一・二編全20回	東亞病夫	上海真美善書店	*1928.1.10初 1928.3.21再
修改後要說的幾句話	東亞病夫	修改20回本	*1928.1.10

		台湾世界書局『孽海花』	1957.5
		*『孽海花資料』北京中華書局	1962.4
孽海花 第13卷第26回	東亞病夫	『真美善』第1卷第6号	1928.1.16
希臘碧莉娣歌	ビエール・ルイス 訳	病夫重訳	
		『真美善』第1卷第6号	1928.1.16
論法蘭西悲劇源流(統)	病夫	『真美善』第1卷第6号	1928.1.16
介紹畫家龔劍華君	東亞病夫	『真美善』第1卷第6号	1928.1.16
魯男子「恋」5	東亞病夫	『真美善』第1卷第7号	1928.2.1
無題四首次集人均	籀齋	『真美善』第1卷第7号	1928.2.1
孽海花 第14卷第27回	東亞病夫	『真美善』第1卷第8号	1928.2.16
都門感懷四首	籀齋	『真美善』第1卷第8号	1928.2.16
希臘碧莉娣歌	病夫訳	『真美善』第1卷第8号	1928.2.16
馬篤法谷	法国弗勞貝著	病夫訳	
		『真美善』第1卷第8号	1928.2.16
<給戴望道的信>	病夫	『真美善』第1卷第8号	1928.2.16
魯男子「恋」6	東亞病夫	『真美善』第1卷第9号	1928.3.1
親呢集	法国李顯賓著	病夫訳	
	Jean Richepin	『真美善』第1卷第9号	1928.3.1
游南泡婦途口占	籀齋	『真美善』第1卷第9号	1928.3.1
<給錦暹的信>	病夫	『真美善』第1卷第9号	1928.3.1
読張鳳用各体詩訳外国詩の実験			
	病夫	『真美善』第1卷第10号	1928.3.16
孽海花 第14卷第28回	東亞病夫	『真美善』第1卷第10号	1928.3.16
別一個人	法国浦萊孚斯德著	病夫訳	
		『真美善』第1卷第10号	1928.3.16
読張鳳用各体詩訳外国詩の実験(統)			
	病夫	『真美善』第1卷第11号	1928.4.1
魯男子「恋」7	東亞病夫	『真美善』第1卷第11号	1928.4.1
復王石樵、黃序龐、顧羲的信			
	病夫	『真美善』第1卷第11号	1928.4.1
孽海花 第15卷第29回	東亞病夫	『真美善』第1卷第12号	1928.4.16
復胡適的信	病夫	『真美善』第1卷第12号	1928.4.16
		『胡適文存』3集卷8 上海亞東圖書館	1930.9
		台湾世界書局『孽海花』	1957.5
		『伝記文学』第8卷第3期	1966.3.1
		『胡適文存』3集卷8 台湾遠東圖書公司	
孽海花 第15卷第30回	東亞病夫	『真美善』第2卷第1号	1928.5.16

徵求陳季同先生事蹟及其作品	病夫	『真美善』第2卷第1号	1928.5.16
		(『真美善』第2卷第2~4号にも同文のものあり)	
魯男子「恋」8	病夫	『真美善』第2卷第1号	1928.5.16
穆理哀的戀愛史	病夫	『真美善』第2卷第1号	1928.5.16
李顯賓乞兒歌の鳥瞰	病夫	『真美善』第2卷第1号	1928.5.16
乞兒歌	Par Jean Richepin	病夫訳	
		『真美善』第2卷第1号	1928.5.16
巴爾薩克的婚姻史	病夫	『真美善』第2卷第1号	1928.5.16
病夫日記	東亞病夫		1928.5.22~25
		『宇宙風』第2期	1935.10.1
		『伝記文学』第8卷第6期	1966.6.1
病夫日記	東亞病夫		1928.6.8
	虛白附識		7.5
		『宇宙風』第1期	1935.9.16
孽海花 第16卷第31回	東亞病夫	『真美善』第2卷第2号	1928.6.16
魯男子「恋」9	東亞病夫	『真美善』第2卷第2号	1928.6.16
読物展覽会	陳季同原著	病夫訳	
		『真美善』第2卷第2号	1928.6.16
孽海花 第16卷第32回	東亞病夫	『真美善』第2卷第3号	1928.7.16
魯男子「恋」10	〈病夫〉	『真美善』第2卷第3号	1928.7.16
魯男子「恋」11・12	〈病夫〉	『真美善』第2卷第4号	1928.8.16
喬治桑の訴訟	病夫	『真美善』第2卷第4号	1928.8.16
復劉舞心女士書	〈病夫〉	『真美善』第2卷第5号	1928.9.16
魯男子「恋」13	〈病夫〉	『真美善』第2卷第5号	1928.9.16
阿弗洛狄德(妮娛絲)の考索	病夫	『真美善』第2卷第5号	1928.9.16
談談法国騎士文学	病夫	『真美善』第2卷第6号	1928.10.16
魯男子「恋」14	〈病夫〉	『真美善』第2卷第6号	1928.10.16
魯男子「恋」15	〈病夫〉	『真美善』第3卷第1号	1928.11.16
*『鐘樓怪人歌劇』	ユゴー	東亞病夫訳	
		上海真美善書店	1928.11
魯男子「恋」16	〈病夫〉	『真美善』第3卷第2号	1928.12.16
劉舞心女士の復信	病夫	『真美善』第3卷第2号	1928.12.16
*『論法蘭西悲劇源流(法国文学研究之一)』	病夫	上海真美善書店	1928
*『一家言』	病夫 虛白	(詩文の合集)	1928

*『南丹与奈農夫人』 Nanta et Madame Nangon	ゾラ 東亞病夫 上海真美善書店	1928
魯男子「恋」17	〈病夫〉 『真美善』第3卷第3号	1929.1.16
魯男子「恋」18	〈病夫〉 『真美善』第3卷第4号	1929.2.16
諾亞伊夫人的詩	Comtesse de Noaille 病夫訳 『真美善』第3卷第4号	1929.2.16
魯男子「恋」19	〈病夫〉 『真美善』第3卷第5号	1929.3.16
魯男子「恋」20	〈病夫〉 『真美善』第3卷第6号	1929.3.16
你是我	病夫 『真美善』第3卷第6号	1929.3.16
魯男子「恋」21	〈病夫〉 『真美善』第4卷第1号	1929.4.16
青年文学家費鐸葛拉特哥仏 Fédor Glabkov 自伝 〔介紹新俄無產階級的兩個偉大作家〕	病夫訳 『真美善』第4卷第1号	1929.4.16
孽海花 第16卷第33回	東亞病夫 『真美善』第4卷第2号	1929.5.16
魯男子「恋」22	〈病夫〉 『真美善』第4卷第3号	1929.6.16
孽海花 第16卷第33回	〈東亞病夫〉 『真美善』第4卷第4号	1929.8.16
法国文豪喬治顧岱林誅頌	病夫 『真美善』第4卷第5号	1629.9.16
魯男子「恋」23	〈病夫〉 『真美善』第4卷第5号	1929.9.16
魯男子「婚」1	〈病夫〉 『真美善』第4卷第6号	1929.10.16
法国文豪喬治顧岱林誅頌(統)	病夫 『真美善』第5卷第1号	1929.11.16
孽海花 第16卷第34回	〈病夫〉 『真美善』第5卷第1号	1929.11.16
魯男子「婚」2	〈病夫〉 『真美善』第5卷第2号	1929.12.16
*諾亞伊夫人	病夫 真美善雜誌一周記紀念号外『女作家專号』	
*虞山女作家	病夫 真美善雜誌一周年紀念号外『女作家專号』	
*題蘇梅女士詩集		1929—30
『魯男子』	*上海真美善書店	1929初版
民衆派小説	法国勒穆彦 Leon Lemonnier 作 病夫訳 『真美善』第5卷第3号	1930.1.16
雷麥克西部前線平靜無事的法国批評	拉蒙黃南台 Ramon Fernandez 著 病夫訳 『真美善』第5卷第4号	1930.2.16
莫洛華的擺倫生活	(病) 『真美善』第5卷第4号	1930.2.16
馬利斯龍雷記阿爾封斯杜岱的死	(病) 『真美善』第5卷第4号	1930.2.16
孽海花 第16卷第35回	〈病夫〉 『真美善』第5卷第6号	1930.4.16
法国今日的小説	病夫 『真美善』第6卷第1号	1930.5.16

- 雷翁杜佻四部奇著的批評  
 法国 Rene Lalou 著 病夫訳  
 『真美善』第6卷第2号 1930.6.16
- 欧那尼出幕的自述  
 Victor Hugo 作 病夫訳  
 『真美善』第6卷第3号 1930.7.16
- 恋書的発端  
 Victor Hugo 作 病夫訳  
 『真美善』第6卷第3号 1930.7.16
- 我的恋書  
 Victor Hugo 作 病夫訳  
 『真美善』第6卷第3号 1930.7.16
- 憤激  
 Victor Hugo 作 病夫訳  
 『真美善』第6卷第3号 1930.7.16
- 童  
 Victor Hugo 作 病夫訳  
 『真美善』第6卷第3号 1930.7.16
- 春之初笑  
 Théophile Gautier 作 病夫訳  
 『真美善』第6卷第3号 1930.7.16
- 法国語言の原始  
 病夫 『真美善』第6卷第4号 1930.8.16
- 魯男子「戦」1  
 曾樸 『真美善』季刊第1卷第1号 1931.4
- 笑の人  
 V. Hugo 著 曾樸訳  
 『真美善』季刊第1卷第1号 1931.4
- 魯男子「戦」2  
 曾樸 『真美善』季刊第1卷第2号 1931.7
- 笑の人  
 V. Hugo 著 曾樸訳  
 『真美善』季刊第1卷第2号 1931.7
- 『孽海花』15卷30回 \*上海真美善書店 1931
- \*「孽海花」創作之動機及過程 1934
- \*賽金花之生平及与余之關係 1934
- \*藍榜 1935
- 『魯男子』(附婚・戦) \*上海真美善書店 1941
- \*蟹沫掌録 二卷 (為研究法国文学之讀書札記 定名而未及整理出版之資料) 1899以後
- \*竜灰集 (詩集 為三十歳以後之詩集 定名而未及整理出版之資料) 1902以後
- \*統未理集 (詩集) 1927以後
- \*象記 (自伝体的回憶録 以為未完成之遺稿) 1927以後
- \*回憶録 (生活回憶) 1927以後
- \*病の心声 (隨感録) 1927以後
- \*中国神代史 (考証) 1927以後
- \*新韻譜 (考証) 1927以後



*瑪莉韻姐洛姆	ユゴー
*嬉王	ユゴー
*馬麗丟陶	ユゴー
*自由戲劇	ユゴー
*雙子生	ユゴー
*巴杜暴君	

## II 文 獻 目 録

### A 記事・論稿（中国語その他）

- 《孽海花》考証 \*《孽海花》第3冊附錄望雲山房 1916  
 阿英『晚清文学叢鈔 小説戯曲研究卷』北京中華書局 1960.3
- 一《孽海花》人名索隱表／二《孽海花》人物故事考証／三孽海花二十四回中人物故事考証統 強作解人輯証
- 孽海花 徐珂 『清稗類鈔』第28冊著述商務印書館 1917.11.19  
 18.4(3版)
- 孽海花第一百七十八 蔣瑞藻 『小説考証附統編拾遺』卷8 商務印書館  
 在山泉詩話／缺名筆記 1919.9  
 1935.5
- 孽海花原第一百七十八 蔣瑞藻 『小説考証附統編拾遺』拾遺  
 吳坊小志／侗生叢話／松風閣筆乘
- 孽海花隱託人名 小橫香室主人『清朝野史大觀』卷11上海中華書局 1921  
 論翻譯——与曾孟樸先生書—— 1928.2.21付 附錄曾先生答書1928.3.6付  
 胡適 「読者論壇」『真美善』第1卷第12号 1928.4.16  
 『胡適文存』第3集卷8 上海亞東函書館 1930.9  
 『胡適文存』第3集卷8 台灣遠東函書公司
- 東亞病夫自述与賽金花之關係  
 崔万秋 \*『時事新報』(上海) 1934.11.25  
 改題為東亞病夫述「孽海花」創作動機 ~26  
 曾繁『賽金花外伝』所收
- \*孽海花造意者金一先生訪問記  
 范烟橋 『明報』(蘇州) 副刊『明晶』 1934.11.30  
 改題為\*金松岑談《孽海花》 『孽海花資料』  
 『賽金花本事』 劉半農初纂 高鴻達纂就

## 星雲堂書店

1934. 11

序／挿圖〈年方少艾的賽金花·義和團·紅燈罩·清光緒二十六年的北京正陽門城樓·庚子時聯軍將帥在南海聽鴻樓前合影·克林德紀念牌坊落成時攝影·徐娘雖老風韻猶存的賽金花〉／本事〈家世·幼小時代·恩恩一年的壳笑生涯·嫁洪鈞·在歐洲·洪鈞之歿·脫離洪氏後在上海之娼妓生活·在天津開金花班及在北京組織南班之前前後後·拳匪猖獗逃京避難·結識聯軍統帥瓦德西·聯軍肆虐維護京人·儀鸞殿之失火·議和時之諄勸被戕德使克林德夫人·墜馬中傷·班妓服毒己身受禍·被押刑部通解回籍·煞尾〉／年表

悼孽海花的作者曾孟樸先生

- |                  |          |   |                          |
|------------------|----------|---|--------------------------|
|                  | 鄭君平      | 『新小説』第2卷第1期通号第6期                              | 1935.7.15                |
| 曾孟樸与賽金花          | 商鴻達      | 『宇宙風』第2期紀念曾孟樸先生特刊                             | 1935.10.1                |
| 東亜病夫曾孟樸先生遺景(照片)  |          | 『宇宙風』第2期紀念曾孟樸先生特刊                             |                          |
| 東亜病夫曾孟樸先生遺墨(照片)  |          | 『宇宙風』第2期紀念曾孟樸先生特刊                             |                          |
| 追悼曾孟樸先生          | 蔡元培 虛白附識 | 『宇宙風』第2期紀念曾孟樸先生特刊<br>台湾世界書局『孽海花』              | 1957.5                   |
| 追憶曾孟樸先生          | 胡適       | 1935.9.11<br>『宇宙風』第2期紀念曾孟樸先生特刊<br>台湾世界書局『孽海花』 |                          |
| 吾心坎中之孟樸          | 陳陶遺      | 『宇宙風』第2期紀念曾孟樸先生特刊                             |                          |
| 追悼曾孟樸君           | 吳鼎張一麐    | 『宇宙風』第2期紀念曾孟樸先生特刊                             |                          |
| 致徐蔚南書            | 柳亜子 虛白附識 | 『宇宙風』第2期紀念曾孟樸先生特刊                             |                          |
| 紀念曾樸             | 黃炎培      | 『宇宙風』第2期紀念曾孟樸先生特刊                             |                          |
| 我之曾君孟樸觀          | 朱紹文      | 『宇宙風』第2期紀念曾孟樸先生特刊                             |                          |
| 哭孟樸先生            | 吳梅       | 『宇宙風』第2期紀念曾孟樸先生特刊                             |                          |
| 孟樸先生紀念冊題詞        | 穆湘珩      | 『宇宙風』第2期紀念曾孟樸先生特刊                             |                          |
| 曾孟樸先生年譜(上)(中)(下) | 兒子虛白未定稿  | 『宇宙風』第2~4期<br>台湾世界書局『孽海花』                     | 1935.10.1/<br>10.16/11.1 |
|                  | (上)(下)   | 『伝記文学』第8卷第4·6期                                | 1966.4.1/<br>1966.6.1    |
| 讀「曾孟樸先生年譜」       | 徐一士      | 『国聞週報』第12卷第40期                                | 1935.10.14               |
| 曾孟樸              | 史天行      | 「文人小記」『西北風』第3期                                | 1936.6.1                 |
| 孽海花在晚清文学中之地位     | 阿英       | 『小説閒談』上海良友圖書印刷公司                              | 1936                     |

- 孽海花戲本 阿英 「小說零話」『小說閒談』  
上海良友圖書印刷公司
- 『賽金花外傳』 曾繁 上海大光書店 1936  
 挿圖〈賽金花近影·中年時代的賽金花·青年時代的賽金花·孽海花著者曾孟樸晚年論賽金花之手蹟〉／凡例／賽金花外傳〈故京的一角·一代名花的訪問·賽金花自述身世·髫齡已作清信人·嫁做狀元洪鈞·隨洪公使出使德國·結識了瓦德西將軍·從德國回來·不幸洪先生死了·重墮風塵·庚子之變·聯軍進了京城·瓦德西的重逢·再度的訪問·為民請命·淒涼的宮城·賽二爺威震九城·犬馬的嗜好·在長林家裏·墮騎受傷·瓦德西重訂後會之期·瓦德西的迴憶·和議的斡旋·又重理旧日生涯·因鳳靈之死被押·獄中的生活·被逼出京返蘇·小花園的色笑·風塵知己·晚景淒涼的孤獨世味〉／附錄〈賽金花訪問記·東亞病夫述「孽海花」創作動機·賽金花與孽海花·金華夢（一名孽海花）雜劇·「賽金花」之評仙〉
- 為賽金花墓碣事答高二適書
- 金天翹 『衛星』第1卷第1号 1937.1.30  
 改題為金松岑談《孽海花》 \*『孽海花資料』
- 曾孟樸的孽海花 趙景深 『小說閒話』上海北新書局 1937.1  
 郭箴一『中國小說史』\*商務印書館 1939.5  
 香港影印 1961.10
- 〈統孽海花〉楔子 燕谷老人（張隱南）  
 『中和月刊』第2卷第1期 1941.4  
 \*『統孽海花』上海真美善書店 1943.12  
 『統孽海花』台灣世界書局 1964.4
- 談孽海花 拙軒 『中和月刊』第2卷第1期 1941.4  
 台灣世界書局『孽海花』
- 再談孽海花 拙軒 『中和月刊』第2卷第4期
- \*孽海花閒話 冒鶴亭 『古今』41—59号 1944
- \*孽海花二三事 東山 『中央日報』 1946.7.30/31
- \*孽海花及其統著 江東山 『中央日報』 1946.10.13
- \*The Nih-hai hua and Its Place in the Late Ch'ing Social Novel of Protest (孽海花：在晚清反抗性社會小說中的地位)  
 Willis, Donald S.  
 Washington, Seattle 1951
- 孽海花 阿英 『晚清戲曲小說目』上海文芸聯合出版社 1954.8  
 上海古典文學出版社 1957.9
- 「孽海花」叙引 阿英 1955.1 改寫

## 北京宝文堂書店『孽海花』

- 正確估計“孽海花”在中國近代文學史上的地位
- 陳則光 \*『中山大學學報』社會科學版6 1956.3  
『明清小說研究論文集』北京人民文學出版  
1959.2  
『明清小說研究論文集統編』香港中國語文學社  
1970.1
- “孽海花”述評 熊起渭 「文學遺產」第110期『光明日報』 1956.6.24
- \*曾孟樸和他的“孽海花”小說
- 吳農 『新華日報』 1975.1.21
- 孽海花 孫楷第 『中國通俗小說書目』北京作家出版社 1957.1·  
1958.1
- 我對曾孟樸先生的認識 張道藩 1957.4.25  
台灣世界書局『孽海花』  
『中央日報』 1957.6.17
- 台灣重印新序 羅家倫 1957.4.26  
台灣世界書局『孽海花』  
『中央日報』 1957.6.16
- 孽海花人名索隱表 冒鶴亭 台灣世界書局『孽海花』
- 孽海花人物談 紀果庵 台灣世界書局『孽海花』
- 雪窗閒話賽金花 周夢莊 台灣世界書局『孽海花』  
紀果庵等『晚清及民國人物瑣談』台灣學生書局  
1972.11
- 「孽海花」渡海 王理璜 『中央日報』 1957.7.25
- 說“孽海花” 吳小如 \*『文芸學習』40 1957.7  
『中國古典小說評論集』北京出版社 1957
- \*孽海花的寫作藝術 王平陵 『中央日報』 1957.8.10
- 孽海花雜話 阿英 『小說二談』上海古典文學出版社 1958.5
- 談孽海花 吳強 「蕉陰雜話」『中央日報』 1959.4.14/15
- 談統孽海花 吳強 「蕉陰雜話」『中央日報』 1959.5.2/4
- 孽海花 孔另境 『中國小說史料』上海中華書局 1959.6·1962.  
吳坊小志／侗生叢話／松風閣筆乘／在山泉詩話／小說考証 蔣 3  
瑞藻／缺名筆記 蔣瑞藻／清末四大小說家 魏如晦
- 魯男子的寫作動機與計畫
- 曾虛白 台灣世界書局版『魯男子』 1959.8
- 曾樸及其《孽海花》 弗·謝曼諾夫(Семенов) 艾立訊  
『文學評論』1960年5期 1960.11

- 「孽海花」及其統集 寧遠 『小説新話』香港上海書局 1961.3
- 《孽海花》側記 范烟橋 『光明日報』 1961.5.18
- \*『孽海花資料』 魏紹昌編 北京中華書局 1962.4
- 本書は未見であるが、鳥居久靖「《孽海花資料》紹介」(『大安』9—9 1963.9)によっておおよその内容を記しておく。前言／目録／写真く曾樸の壯年時代(『宇宙風』第2期所掲と大同)・曾樸20歳・金松岑40歳・賽金花の少女時代・小説林本初版見返し・真美善本初版表紙・真美善本初版挿絵2面・曾《孽海花》底稿の表紙・同目録第1ページ・同本文第1・8ページ・曾の擬定した人物一覧(底稿第1冊の末尾に附されていたもの)／第1輯テキストの対合く小説林本第1～6回および第25回の全文、第1,2回のあとに金松岑《孽海花》との対合・第7～24回小説林本と真美善本との異同箇所のみを摘記)／第2輯曾孟樸談《孽海花》〈修改後要說的幾句話・東亞病夫訪問記〉・金松岑談《孽海花》〈答訪者問・致友人書〉／第3輯曾孟樸年譜 曾虛白(編者自身の調査の結果や上海在住の遺族らの談話にもとづいて事実をたしかめ、かつ補正したもの)・《孽海花》人物索隠表
- 〈中華書局版『孽海花』(增訂本)〉前言  
張畢來 1962.8.31  
北京中華書局版『孽海花』 1959.11・1962.12
- 《孽海花》人物索隠表 劉文昭增訂 北京中華書局版『孽海花』
- 才情縱逸寓意深遠的「孽海花」作者——曾樸  
韋庵編著 『中国歴代小説家』香港上海書局 1963.11
- 如何看待晚清的文学和政治——從新版《孽海花》(增訂本)《前言》想起的  
穆欣 『光明日報』 1964.7.30
- 關於《孽海花》的評価問題  
葛杰 『文学評論』1964年6期 1964.12
- 哭父文 曾虛白 『伝記文学』第8卷第3期 1966.3.1
- 曾孟樸与賽金花關係之謎  
斯及美 \*『芸文誌』第7期 1966.4.10
- 『状元夫人賽金花』  
芸文誌月刊社編印 大中華出版社發行 1967.3
- 上編賽金花本事(北大劉半農教授訪賽記)／下編賽金花資料叢刊(賽金花的別名和身世・賽金花的性格・申報記者訪賽記・曾繁訪賽回憶・潘燕生与賽金花一段情・賽金花与八国聯軍統帥瓦德西・曾孟樸与賽金花關係之謎 斯為美・賽金花最後丈夫魏阜欣・賽金花与其拼夫孫三爺 林三『天文台』1967.2・賽金花之男女兩僕・賽金花繫獄紀実 芝厂『芸文誌』第7期1966.4・賽金花死之俄頃・故都名士紀念賽金花・賽金花的葬地陶然亭・賽金花的是非功罪・哀賽金花・對於賽金花的感想・樊增祥前後「彩雲曲」・賽金花年表
- \*『賽金花』 陳澄之 台湾天祥出版社 1967

- 『孽海花研究』 成宜濟 台灣嘉新水泥公司文化基金會 1969.8  
序言／孽海花的作者／孽海花的時代背景与本事／孽海花的人物／孽海花的写作技巧／孽海花的版本／孽海花的價值（代結論）
- \*從近代思想史看孽海花的意義  
陳万雄 『新亞書院歷史学系系刊』2 1972.9
- 日報上的賽金花 周黎庵 『晚清及民国人物瑣談』台灣學生書局 1972.11
- 李著陳識先父文学旅程前言  
曾虛白 『伝記文学』第24卷第5期 1974.5.1  
『曾孟樸的文学旅程』伝記文学社 1977.8.1
- 曾孟樸先生的文学旅程 1～13  
李培德著 陳孟堅訳  
『伝記文学』第24卷第6期～第27卷第1期 1974.6.1～1975.7.1  
『曾孟樸的文学旅程』
- 「曾孟樸先生的文学旅程」訳者弁語  
陳孟堅 『伝記文学』第27卷第2期 1975.8.1  
『曾孟樸的文学旅程』
- 『曾孟樸的文学旅程』 李培德著 陳孟堅訳 伝記文学叢書之七〇  
台灣伝記文学出版社 1977.8.1  
李著陳識先父文学旅程前言 曾虛白／作者的幾句話 李培德／緒言・曾孟樸的青少年時代・秋名与經典之学・曾孟樸与法国文学・作家、出版家和翻譯家・「孽海花」——一部社会抗議的小説／訳者附記 陳孟堅／附録〈曾孟樸先生著作及訳文（按出版前後序）・重要參考資料選（中文部分・英文部分）〉
- \*曾孟樸的文学旅程 梁実秋 『中華日報』 1977.10.24  
風日有情無処著「説曾孟樸的文学旅程」  
方瑜 『時報周刊』 1978.4.23
- 『孽海花本事』 繡虎生編著 上海大通圖書社印行 刊年不明  
序／孽海花撰述之動機 愛自由者与東亞病夫／孽海花本事人名索隱表／十五年前風流孽債 關於洪文卿与賽金花情事之伝説／命婦原来是小星 富彩雲随使出洋之酬勞／画裏居然伴女皇 彩雲小弄聰明蒙過許多俗眼／児家生小擅風流 關於彩雲一生之放浪史／彩雲縁法在青樓 幾度更名奔南北／附録樊樊山前後彩雲曲／洪文卿所弁之交涉案 力争朝鮮派使駐俄徒尚意氣／洪文卿喪權辱国之參案 与張蔭桓構隙之原因／尙宮失和之前因後果 德宗之立与瀛台之幽禁／珍妃之受杖及被貶始末 起因於魯伯陽爆發於裕寬／西太后宮中之兩清客 繆太太与小姑娘／江海関道之逐鹿 魯伯陽始終未能到任之内幕／四川塩茶道之幻夢 玉銘祝髮為僧之一段趣史／中法戰爭之軼聞 張佩綸紙上談兵所

得之結果／轉敗為勝後之和事老 馮子才等空費許多氣力／海軍衙門之設立  
 黜賢用佞為海軍不振之一大原因／丁汝昌之投降与自殺 甲午戰爭中之一段秘密  
 密／書生亦欲情長櫻 吳大澂不自量力之結果／甲午戰爭中之幾員名將 戰爭  
 之起因与致敗之道／議和声裏之李鴻章 顧中一彈身受唾罵／詩人到処覓温  
 柔 關於龔定庵与顧子春之風流佚話／江山九姓美人麻 宝竹坡与江山妓之意  
 外因縁／一幅長江万里圖 大刀王五生平快意事之一／鞠部新声滿九衢 滿洲  
 王公之戲迷

- \*孽海花的兩種版本 魏紹昌 『文匯報』  
 \*説《孽海花》 吳小如 『読人所常見書目札』中華書局  
 \*『賽金花故事』 洪淵 時代図書公司

### B 記事・論稿・翻訳（日本語）

- 賽金花口述(1)~(3) 劉半農 商鴻遠 竹内好訳 1940.9.1~  
 『中国文学』第65~67号 12.1
- 賽金花自伝(上)(中)(下) 統篇(1)(2) 1941.3.1~  
 藤田菱花訳 『満蒙』第22年第3~7号 7.1
- 賽金花雜考 藤田菱花 『満蒙』第22年10月号 1941.10.1
- 賽金花と洪鈞(上)(下) 島田好 『満蒙』第23年1・2月号 1941.1.1・
- 『賽金花』 劉半農著 竹内好訳補 [2.1  
 生活社 1942.8.15
- 曾樸氏の翻訳論 吉川幸次郎 \*『世界文学』 1947.7  
 \*『中国散文論』弘文堂 1949.6  
 『中国散文論』筑摩書房 1966.1  
 『吉川幸次郎全集』第16巻筑摩書房 1970.7.20
- 阿Q三代記——民国文学の系譜  
 魚返善雄 『民国の文学』育生社 1948.11.15
- 孽海花 目加田誠 『文学研究』第54輯九州文学会 1956.3.10
- 「孽海花」ノート 中野美代子 『外国語・外国文学研究』5 北海道大学教養部  
 1958.3.28
- 清末の譴責小説について内田道夫 『文学部研究年報』第11号東北大学 1961
- 「孽海花」の修改 鳥居久靖 『清末文学言語研究会会報』第2号 1962.10.5
- 『孽海花』の版本 鳥居久靖 『天理大学学报』第39輯 1962.12
- 東京訪書おぼえがき——清末文学研究資料を中心として  
 鳥居久靖 『清末文学言語研究会会報』第3号 1963.3.10
- 『孽海花』について 松枝茂夫 『中国現代文学選集』第1巻清末・五四前夜集  
 平凡社 1963.8.15
- 孽海花版本札記 鳥居久靖 『中国語学』133 中国語学研究会 1963.8.15

- 《孽海花資料》紹介 鳥居久靖 『大安』Vol. 9 No. 9 1963.9
- 中国の清末社会小説(上) 大村益夫 『東洋文学研究』第12号早稲田大学東洋文学会  
1964.2
- 「孽海花」覚え書き 相浦杲 『野草』第2号中国文芸研究会 1971.1.15
- 「孽海花」における創作態度——その〈二十回本〉と〈三十回本〉との比較  
麦生登美江 『中国文学論集』第2号九州大学中国文学会  
1971.5.1
- 曾樸の文学論と「孽海花」  
麦生登美江 『中国文学論集』第3号 1972.5.1
- 晚清に於ける虚無党小説  
中村忠行 『天理大学学報』第85輯 1973.3.21
- 「孽海花」の文体——美への追求  
麦生登美江 『中国文学論集』第4号 1974.5
- 孽海花(全20回) 松枝茂夫訳 『中国現代文学選集』第1巻清末・五四前夜集  
平凡社 1963.8.15
- C 文学史・事典**
- 〈曾樸〉 魯迅 「第28篇清末之譴責小説」『中国小説史略』(下)  
\*新潮社 1924.6  
\*北新書局 合訂本 1925.9  
\*『魯迅全集』(紀念本)第9巻復社 1938.8  
『魯迅三十年集』9 魯迅全集出版社 1941.10  
『魯迅全集』(注积本)第8巻人民文学出版社  
1957.12  
『魯迅全集』第9巻人民文学出版社 1973
- 〈孽海花〉 范煙橋 『中国小説史』\*蘇州秋葉社 1927.12  
香港影印 1967
- 〈曾樸〉 廬冀野先生講 柳・潘・周・陸記  
『近代中国文学講話』上海会文堂新記書局  
1930.5
- 〈曾樸〉 陳炳堃 『最近三十年中国文学史』上海太平洋書店  
1631.5再版
- 曾樸 王哲甫 『中国新文学運動史』\*北京景山書社 1933.9  
香港影印 1967.5
- 〈孽海花〉 譚正璧 『中国小説發達史』上海光明書局 1935.8
- 〈曾樸〉 陳子展 『中国文学史講話』下冊北新書局 1937.6
- 〈東亜病夫及其孽海花〉 阿英 『晚清小説史』商務印書館 1937.5  
作家出版社 1955



- 香港影印 (1955年版) 1966
- 台灣影印 (1937年版) 1968
- 〈孽海花〉 楊蔭深 『中国文学史大綱』\*商務印書館 1938.6
- 香港影印 1961.2
- 孽海花 郭箴一 『中国小說史』\*商務印書館 1939.5
- 附曾孟樸的孽海花 趙景深 香港影印 1961.10
- 曾樸 趙燕声 ‘Short Biographies of Authors’ “1500 Modern Chinese Novels & Plays” \*北平 1948
- 香港影印 1966
- 魯男子 ‘Present Day Fiction’ “1500 Modern Chinese Novels & Plays” \*北平 1948
- 香港影印 1966
- 〈曾樸〉 劉大傑 『中国文学發展史』下卷\*上海中華書局 1949.1
- 上海古典文学出版社 1958.3
- 香港影印 1962.9
- 北京中華書局 1963.7
- 〈孽海花〉 柳存仁 『中国文学史』(插图本)香港大公書局 1956.4
- 1961.1 6版
- 劉鶚与曾樸 葛賢寧 『中国小說史』中華文化出版事業委員會 1956.11·12
- 〈曾樸〉 陸侃如 馮沅君 『中国文学史簡編』(修訂本)作家出版社 1957.7
- 孽海花及其作者曾樸 北京大学中文系文学專門化1955級集体編著 『中国文学史』下冊人民文学出版社 1958
- 曾樸及其《孽海花》 復旦大学中文系古典文学組学生集体編著 『中国文学史』下冊中華書局 1959.12
- 《孽海花》 復旦大学中文系1956級中国近代文学史編写小組編著 『中国近代文学史稿』\*中華書局 1960.5
- 采華書林影印 1969
- 孽海花及其作者曾樸 北京大学中文系文学專門化1955級集体編著 『中国文学史』(修訂本) 4 人民文学出版社 1960
- 《孽海花》及其作者曾樸 北京大学中文系1955級《中国小說史稿》編輯委员会 『中国小說史稿』人民文学出版社 1960
- 采華書林影印 1972
- 曾樸的《孽海花》 北京大学中文系57級編 『中国文学發展簡史』中国青年出版社 1961
- 曾樸和他的孽海花 吉林大学中文系中国文学史教材編写小組編著

- 『中国文学史稿』4 \*長春吉林人民出版社 1961  
采華書林影印
- 曾樸 『辞海』(試行本)第10分冊\*中華書局 1961.10  
香港影印 1976
- 孽海花 『辞海』(試行本)第10分冊\*中華書局 1961.10  
香港影印 1976
- 孽海花及其他 游国恩等 『中国文学史』 4 人民文学出版社 1964.2
- 曾樸 李立明 『中国現代六百作家小伝』香港波文書局 1977.10
- 曾樸 橋川時雄 『中国文化界人物総鑑』中華法令編印館  
1940.10.25
- 曾樸 『大人名事典』7 平凡社 1954.9.10
- 曾樸 『研究社世界文学辞典』 1954.10.1
- 賽金花 『研究社世界文学辞典』 1954.10.1
- 孽海花 入矢義高 『研究社世界文学辞典』 1954.10.1
- 曾樸 中国文学研究会  
『中国新文学事典』河出書房 1955.11.25
- 孽海花 『中国新文学事典』河出書房 1955.11.25
- <曾樸> 小野忍 『現代の中国文学』毎日新聞社 1958.5
- 孽海花 中野美代子 『アジア歴史事典』3 平凡社 1960.3.5
- 孽海花 中野美代子 『世界名著大事典』2 平凡社 1960.4.28
- 賽金花 尾上兼英 『アジア歴史事典』4 平凡社 1960.5.28
- 曾樸 小野忍 『アジア歴史事典』5 平凡社 1960.8.30
- 曾樸 『世界名著大事典』8 平凡社 1962.4.30
- 曾樸 尾崎実 中国語学研究会関西支部編『中国語と中国文化』  
光生館 1965.5.10/1970.4.25
- 曾樸 香坂順一 『新潮世界文学小辞典』新潮社 1966.5.10
- 『孽海花』 尾上兼英 『現代教養百科事典』9 文学 暁教育図書株式会  
社 1968.4.1
- 孽海花 清水久美子 『大日本百科事典ジャポニカ』6 小学館  
1968.12.20
- 曾樸 大村益夫 『大日本百科事典ジャポニカ』11 小学館  
1969.12.20
- 孽海花 中野美代子 『グランド現代百科事典』7 学習研究社  
1971.10.15
- 曾樸 中野美代子 『万有百科大事典』1 文学 小学館 1973.8.10
- 曾樸 『ブリタニカ国際大百科事典』4「小項目事典」  
ティビーエス・ブリタニカ 1974.3.1

## 編者的一點小意見

## 病 夫

『真美善』第1卷創刊号 1927. 11. 1

真美善三個字，是很廣泛的名辭，差不多有許多学科可以適用。但是我選這三個字來做我雜誌的名，是專一取做文學的標準。

那麼在文學上究竟什麼叫做真？就是文學的體質。體質是什麼東西？就是文學裏一個作品，所以形成的事實或情緒。作者把自己選採的事實或情緒，不問是現實的，是想像的，描寫得來恰如分際，不模倣，不矯飾，不擴大，如實地寫出來，叫讀者同化在他想像的境界裏，忘了是文字的表現，這就是真。

那麼什麼叫做美？就是文學的組織。組織是什麼東西？就是一個作品裏全體的佈局和章法句字法，作者把這些通盤籌計了，拿技巧的方法來排列配合得整齊緊湊，彷彿拿着許多笨重的鍋爐機輪做成一件靈活的機器，合着許多死的皮肉筋骨質料併就一個活的人，自然地顯現出精神，興趣，色彩，和印感，能激動讀者的心，怡悅讀者的目，就丟了書本，影象上還留着醞醞余味，這就是美。

那麼什麼叫做善？就是文學的目的。目的是什麼東西？就是一個作品的原動力，就是作品的主旨，也就是牠的作用；凡作品的產生，沒有無因而至的，沒有無病而呻的，或為傳宣學說，或為解決問題，或為發抒情感，或為糾正繆誤，形形色色，萬有不同，但總合着說，總希望作品發生作用；不論政治上，社會上，道德上，學問上，發生變動的影響，這才算達到文學作品最高的目的；所以文學作品的目的，是希望未來的，不是苟安現在的，是改進的，不是保守的，是試驗品，不是成績品，是冒險的，不是安分的；總而言之，不超越求真理的界線，這就是善。

我既說明這三個字義，難不成我就取這三個字來標榜我的雜誌嗎？這不成了誇大狂了。古今中外的學術，能兼備這三字條件的能有幾何，且澈底說，本沒有絕對的真美善，不過是比較的。拿中國學術來看：從豎裏講，兩漢的經師和清朝的經生考拋家，是求真的，六朝晉唐的詩文家，是求美的，周秦諸子，宋明諸儒，是求善的；從橫裏講，曾國藩分學術做三類，（一）義理，（二）考拋，（三）詞章，那麼義理是求善，考拋是求真，詞章是求美。拿世界學術來看：科學是求真，文學是求美，宗教和哲學是求善。若專拿文學來看：那麼古典和浪漫主義，近美，寫實主義近真，近三十年来的人道主義和社會主義，近善（註一）。

我們把真美善三字來名我的雜誌，不配講以上的話，說一句文言的慣語，便叫做『卑之無甚高論』，不過表明牠的一點願望，除去違背得太甚的罷了。譬如一個時髦中國人，穿了西裝，明明語言相通，却偏要在中國話裏，夾雜着幾句外國腔，這未免太不真了；譬如開了一月舊貨鋪，可發卖的貨色很多，却偏要拿些妓女，女學生，蕩婦的淫脂浪粉，破褲旧衣，一樣樣陳列出來，這未免太不美了；譬如立個醫院，原是救濟人類，替人類求健全幸福的，却拿來做毒害人的機關，還有借着病來逼勒人家銀錢，這未免太不善了；人事上是如此，文學上只怕也有這種毛病，我們這個雜誌，決不沾染這種氣習，這就是編者要表明的第一種意見。

凡是一種學術，總有確定範圍。我們這部雜誌，是文學雜誌，那麼必須先將文學的範圍確定，然後雜誌應採的材料，方有標準。但文學範圍，論壇上，至今還沒把牠的領域劃清。如歷史和哲學，本屬於文學，現在都擴大成了獨立科學了，然有時批評文學的人，還有把牠們当做文學看待的，其余或出或入，也還不少。我現在只好憑着主觀的判斷，把那確已成了專科的不列，此外仍依文學史上原有統系，暫定我雜誌裏所含創作或記述文學種類的範圍，列表如左。

〈表略〉

右表所列的種類，大抵依著歐洲文學上邏輯的分類法，把中國體裁概略的參合，——凡中國本有讀者可以意會或中國本無的，都不註明。——這個分類法，

（註一）人道主義 Humanisme 社會主義 Socialisme，這兩派的文學，從自然主義衰落後發生的；前一派是謀道德上的建設，定人生的標的，如蒲爾善，弘朗士諸家；後一派是拋業娛樂的心腸，謀社會大多数的幸福，如託爾斯泰，易卜生，鄧南遮等。

為何不用中国的，却用外国的。這並不是編者的喜新，也不是媚外，只為這雜誌是主張改革文学的，不是替旧文学操選政或伝宣的。既要改革文学，自然該儘量容納外界異性的成分，來蜕化他陳腐的體質，另外形成一個新種族。這在生物学上，叫做分化作用，在文学上，就是變遷的過程。試問拉培雷沒有荷蘭歐拉斯姆的狂頌（註二），英国毛爾的烏託邦（註三），那裏能創造巨人伝（註四）；沒有七星社的翻譯希羅作品，那裏會開發法蘭西的文芸復興（註五）；米爾頓不到意大利，受但丁影響，那裏有迷失天國的創作（註六）；哥德不隱居法蘭西鄉間，識了狐史（註七）那裏來孚士德的成功；蠶俄不流放英国，灌輸了莎士比亞戲劇的熱浪，那裏敢放胆造成法國的特拉姆；可見世界上，無論那一国的文学，不受外国潮流的衝激，決不能發生絕大的變化的。不過我們主張把外潮的涵湧，來衝激自己的創造力，不願沉沒在潮流裏，自取滅頂之禍；願意唱新鄉調，不願唱雙簧；不是拿葫蘆來依樣的畫，是拿葫蘆來播種，等著生出新葫蘆來，這就是編者要表明的第二種意見。

凡文学的革新，最先着手的，總是語言文字。就拿法國來說，文芸復興時代，童沙爾就在他的詩裏，散播了許多拉丁字，步愛羅雖然讚美他的詩，還攻擊他這一点，馬雷勃統繼興起，開始矯正整理做成真法國的詩（註八）；浪漫派第二次的改革，衝破古典派的謹嚴，再進一步，把通俗的語言，用入詩文裏；就是中國新文化的勃興，起點也是在文言白話的論戰，到了現在，差不多白話已點了優勢，對着這點，似乎不用討論。但我却還有三種見解，對於現在文壇，要大胆的說一

（註二）歐拉斯姆 Erasme, 是荷蘭的文学家，拉培雷的師，狂頌 L'Eloge de la Folie 的著作人。

（註三）毛爾 Thomas More, 是烏托邦 Utopia 的著作人，拉培雷受他的影響。

（註四）拉培雷 Rabelais, 法國十六世紀的大文豪，有巨人伝及邦塔格呂愛兩巨著 Gargantua et Pantagruel.

（註五）七星社 La Pleiade, 是法國 童沙爾 Ronsard 狄雷培 Du Bellay 等七賢組織的文社，專譯希羅作品。

（註六）米爾頓 Mirton, 英国 克林威爾時代的大詩人，迷失的天國 Paradis Perdus 的作者。

（註七）哥德 Goethe, 德國大詩人，哲学家，著孚士德劇詩 Paust。狐史 Roman de Renard, 法國中世紀的諷刺詩，哥德曾經識過。

（註八）童沙爾，法國古典派大詩家，見前註。步愛羅 Boileau 法家批評家，又詩家，馬雷勃 Malherbe, 法國詩家。步愛羅批評童沙爾同馬雷勃，見詩的藝術裏 L'Art Poelique。

下。

(一) 白話文何以戰勝文言，就為了適應現代潮流。現在潮流，就是解放的潮流，白話的本質，是解放的，普及的，平民的，所以能把束縛的，不是盡人能解的，貴族式的文言，壓低了牠的氣焰。從前戈恬及巴爾那斯派主張『藝術為藝術』的文学（註九），已經成了過去，目前風發雲湧的是託爾斯泰『藝術為人生』的文学；不能再像十八世紀宮邸的文学或客厅的文学，集合了貴紳名士，在高雅文會裏，闕了門討論欣賞；要重門洞開，放着大路上夾夾雜雜的群衆，大家來了解，大家來享樂，大家來印感，這才是真正的平民文学，真的群衆文学，真的『藝術為人生』的文学。我們想做文学家的責任，應該在作品或讀品的用語上，第一注意須求普遍的了解，不但叫會讀的讀了都懂，並且要叫不會讀的聽了都懂，詩人白居易做了詩，要叫老太婆聽了明白，才算好詩，我們現在也該把白居易做詩的標準，來做我們文学作品的標準。若然面子上算改了白話，底子裏還是嚙嚙疙搭，詰曲聳牙，研究過新文学的人能懂，沒研究過的就不能懂，會外國文的人，還可勉強看得下，不會的只好付之一嘆，不管他是有意矜奇立異，或是無心辭不達意，但打總說，是改去難解的文言換了個難解的白話，打倒了舊貴族式，另造了一個新貴族式，把改革白話的本意拋荒了，雖然現代的作品，明白曉暢的佳作也很豐富，然照我說的樣子也還不少，這實在是現代文学革新裏的一個歧途，我們不敢說指導，但是大家應該勉力向著普遍了解的大道走。

(二) 文学是一個種族或一個國家的背景。凡是成立一個種族或一個國家，也和一個人一樣都有牠的個性，文学就是一個種族或一個國家個性的表現；所謂個性，仍不外性質，習慣，語言，三大要素；文学儘管千變萬化，個性是不變的，永存的；所以英吉利的文学，決不是法蘭西的文学，日耳曼的文学，決不是俄羅斯的文学，各有各的特徵。你看狄西翻譯莎斯比亞的奧德洛劇，把歐旦孟被奧德洛刺死一場實演了，使法國許多婦女暈倒包廂裏，後來只好把刺死的情節，改了口述，把黑色的面換了黃銅色，這就是性質上的關係（註十）；拉黎威創造喜劇，

（註九）戈恬 Gautier，是主張藝術獨立最烈的人，他說：藝術專寫美，不該有別的目的。

巴爾那斯 Parnasse，本是希臘的山名，法國李斯爾 Lisle 哥貝 Coppee 威倫 Verlaine 等，用做文派的名，日本認高踏派。

（註十）狄西 Jean Francois Ducis，法國悲劇詩人，譯奧德洛事，見勃倫南法國文学史 Histoire de la litterature francaise, Par Brunetiere。

實際都是模倣意大利，把意大利的體格，外面蓋上法蘭西的裝束，刪削意大利的成語典故，換了法蘭西的成語典故（註十一），這就是習慣和語言的關係。而且語言是尤其重要，拉且爾在自己創作高黎符喜劇敘上說：他的作品，完全是希羅風格，但用的全是法國通俗語言，希望把雜貨店式的戲言謾語瀝清，叫法國語言，超越希羅（註十二），這都是文學上對於國語，表示愛護尊崇希望整理而不肯改變的意思。中國近來新文化的運動，不能說不爛漫，可惜只顯顯狂似的模倣外人，不知不覺忘了自己。所有作品裏，不要說遇到敘說男女的相見，一上來就接吻抱腰，描寫男子的熱情，動不動便自殺決鬥，青年的煩悶，個個是維持，英雄的奮鬥，人人是克利斯多弗，其實中國人的習慣是拘牽的，性質是調和的，科學未發達，『世紀病』的感覺是遲鈍的，『拿着張三帽子望李四頭上硬戴』，總覺有些不自然，不對筭；尤其是語體的改變，放着說慣的語言秩序不用，編要顛顛倒倒學着人家的語法，叫做歐化文字；那麼索性把你的黃皮剝掉變了白，黑髮拔去變了黃褐棕，黑眼珠挖去變了藍，骨架折去重新裝置；否則用易魂術來把自己的靈魂，鑽進外國人軀殼裏，更要像得多哩。所以我們主張改革文學，第一要發揚自己的國性，尊重自己的語言文字，在自己的語言文字裏，改造中國國性的新文學。

（三）藝術惟一的要點，不論精神形式，全在調和同一致，在調和同一致裏面，方能顯現美的印象來；藝術是如此，文學是藝術的一部，自然逃不了這個公例。文學作品，用文言也好，用白話也好，但應該用文言的一致用文言，白話的一致用白話，不可自亂了界線。中國的用文言，已經有了千余年的經驗，用不着我來討論；白話文雖然發生很早，拿來普遍應用，還是童稚時代，不可不特別注意。在我的見解，既做白話文，是該一致到底，不可攔入文言，敘事中間，還可些微通融，對話是應當絕對一致的。嚴格說起來，最好是用純粹的方言，像紅樓夢用北京話，金瓶梅用山東話，海上花列傳用蘇州話，蕭養娘用廣東話，染了地方色彩，描模個性，當然愈加真切。但是這樣做法，在作者必要造出許多字典上沒有的字，固然有不少困難，而且作品恐怕不能普及，失了普遍的了解性，也有流弊。在編者的意思，不如用各省最流行的官話，做白話文普通用語。不過也要有個揀選工夫，慢慢的把粗的淘汰了，亂的梳清了，穢的瀝淨了，叫大家都歸到

（註十一·十二）拉黎威 Pierre de Larrivy 拉且爾 La Taille，都是法國喜劇創造人，事見勃倫南甸法國文學史。

一致。這個整理國語的工作，本是件極難的事，編者也不敢自信有此能力，也不敢自信確守一致，不過不能不存這個志願，只好先從消極方面，立幾條標準：

- (一) 在對話內，絕對不許混入文言。
- (二) 在写景或敘情的語句裏，不許疊用文言的形容辭。
- (三) 不模倣日本文法，在一句裏連用許多的字。
- (四) 不用古小說或古典本裏已廢的俗語，如『千鳥事』，『兀的不』等等。
- (五) 不拿外國字攙入，做隱名的替代，如T城V鎮E君等。
- (六) 嘆詞必要有根拠，不用已廢的。

上定數條，不過就目前的需要，做整理文學形式的初步，姑且來嘗試嘗試，不過在改進文學的長途上，做個收拾垃圾的打掃夫罷了。這就是編者要表明的第三種意見。

我的意見說完了，我還要對我幾個好友表示謝忱。一個是江君小鷄，替我畫了一張含着象徵意味的五彩封面，美麗而深細，又許我在幾篇創作上，每期每種裏面，加一張插畫，叫我的雜誌生了許多彩色，增了許多價值，不能不感謝美意：一個是韓君萃青，扶助我發展文學的資力，使我胆大著手；一個是周君菊人，指示我近年出版界的狀況，輔助我營業上的規畫，使我得到不少的益處，是我真美善雜誌創業時該紀念的事。

一六，九，二八，在上海。



# 編者一個忠實的答覆

病 夫

『真美善』第1卷第4号 1927.12.16

彭思先生：

你是我忠實的朋友！——連你的真名都沒有告訴我，我說這句話，不嫌冒昧嗎？我大胆地說：毫不冒昧。為什麼呢？只為你對我說的話，句句忠實；肯說忠實話的，就是忠實的朋友。我也不能把我的意思，忠忠實實地逐條來答復你。

你不贊成我用別号東亜病夫來署名，你用意是很有理由的。但我的意見，却以為一個人的名号，本是拿來做我和別人分別的符号，沒有什麼重大意義。当初我署這個名時，原是馬馬虎虎機械的動作，被你一說，頓時提起我的注意來了。因而想到，古今來一般人在文學作品上，——不問小說和戲曲——署別号的很多，大概跳不出兩種心理：（一）是因為文學作品裏，總不免傷時罵人，恐怕引起反響來和作者嚼嚙，不如用個別号，做他蒙頭蓋臉的藏身窟；（二）是從前文人，都拿着輕蔑的眼光來看文學，彷彿一做這種工作，就失了身分，偶然興到寫成，便鬼鬼祟祟的署上個別号，表示牠是不重要的緒余。照這樣說起來，別号是簡直要不得的東西，無怪你要反對了。但子細一想，也不可執一而論。對於前一種心理，在我初發表孽海花的時候，為着內中含有革命思想，——那時期的革命思想，——又得罪熟人太多，却也未能免俗。不想沒多時，就被幾個淘氣的朋友，不管死活把我在藏身窟裏硬拖出來，從頭至足剝得赤裸裸地，要躲也沒法躲；從此，差不多東亜病夫，就是曾孟樸，曾孟樸就是東亜病夫，一而二，二而一了；從此，不客氣的刻成私章，什麼作品上，都署上這個名，變了習慣了。至於後一種心理，你勸我信任文學，我可以忠實的和你說，我不但信任文學的高尚，我看著文學，就是我的生命，就是我的宗教，只希望將來文壇上，提得到我的名，就是我最後

的榮譽，那裏會發生小說上不願署名的思想；說到官，那更笑話了，我的做官，是我的意志嗎？不過環境驅迫出來的幾齣耍猴戲罷了，這是我生活裏的幾頁苦悶史，恕我這裏不能和你詳細說。以上兩種心理，在我是自信絕對沒有的，想你不至於不信我，那麼用甲符號和用乙符號，總歸是一樣的符號，譬如你住在上海，就寫個滬上，也沒關係。況看你來信，你是很熟悉歐洲文學史的，如古典派的穆里哀 Moliere, 福祿特爾 Voltaire, 浪漫派的喬治桑達 George Sand, 近代的陸梯 Loti, 法朗士 Anatole France 都是文學作品上的專名，並非他們的原名，現在一般人差不多把他們的原名都忘了；我雖不是有意學他們，但不能不認做一個先例。你又說我給現代青年的惡感，那麼你要我歌頌現代的健康嗎？我摸着良心，覺得現在還是在趕速求醫吃大黃芒硝的時候，寫不上揆安兩個吉利字；就算時代已經變了健全人，也許我個人還是個病夫，名號是表現個性的，不至於惹起人們的惡感吧。

你詰問我文俗一致的定義根柢什麼來的？這一点你不免誤會了。我本來說的是意見 Ratiocinatio, 並不是定義 Concilium；意見和定義兩個名詞的意義，在邏輯上是完全不同的，意見是主觀上形成的觀念 Idea, 定義是用邏輯方法來下的斷案 Conclusio, 一是思想的開始，一是思想的結果，怎麼能混而為一？講到我這個觀念，也不是我造的，完全根柢藝術上常識來的，我在小意見裏，早自聲明了。我試舉一個比喻，假使有一幅倪雲林淡遠的山水畫，忽然插入仇十洲的幾處境界画五彩樓台；假使商周青綠的古銅器或古代土色的陶器上，忽然嵌入一方珊瑚和螺鈿；你覺得美嗎？假使你看見有林野風的西子湖邊，建築了許多二十世紀的西式房屋，你能讚頌牠增了美感嗎？所以我的意思注重在調和同一致。況且我是主張民衆文學的，要求普遍的了解，是惟一的目標，白話裏糅入文言，就是普及的障礙，當然不能贊同。但我也不是絕對的，因此純白話，只限於對話，倘然參用文言，經過一番藝術的洗鍊，叫人不覺到不自然，我也不固執成見。無如近來有一種白話，叫人讀了真覺得難過，我來舉出幾句，——恕不引出書名——即如『除此以外，再沒想營求旁的更大的重視……』又道：『然而總要在人們的盲昧殘忍將他們分開以前……』又道：『林中那會有鐘聲告誦你是幾點呢……』。在完全的白話裏，加上營求，重視，盲昧，殘忍幾個文言，已够討厭了；狠順當的告訴二字不用，偏要用告誦，是何道理？更有一段莎士比亞戲曲的對話道：『那都

是幻想做成底，都是熱情，願望，崇拜，盡職，服從，謙卑，忍耐，焦急，淨心，試煉，忍受，做成底……』不但疊用文言的名詞，句法惡劣，又失了原文的句逗；並且連字意也多誤錯，如盡職，原文 Duty 是責任的意思，責任和盡職相差多遠；淨心，原文 Purity 是醇潔的意思，醇潔含義甚廣，淨心便成狹義了；忍受，原文 Observance 是遵奉的意思，毫無忍受的意味；又有人誤一部德國有名的戲劇，在他是狠用心的，可惜也犯了文俗混用的毛病，如說：『你的生命是位預言的神，我無論作甚麼事情都要來諮詢的……』又說：『能去劬起這樣的個人來了！……』又道：『向後退數步，儲足氣力，向前飛跑……』這種句法，觸目都是，用諮詢，儲足等字，已覺蕪雜，劬是索性用典了；這些文俗並用的文字，請你來賞鑑賞鑑，到底美不美呢？又且我主張的文俗一致是對現代的中國人說的，對歐美各國就不適用。只為歐美的語言和文字，雖略有分別，決沒有中國這樣相差的遠，所以歐美人，不大注意這一點，中國却不然，尤其是現在文字混雜的時代。但你學的莎士比亞和童沙爾兩個人，在歐洲却是比較喜用文言的文學；你說莎士比亞戲劇，有時用散文有時用韻文，這是文体上的分別，並不是文言白話的分別；童沙爾喜用拉丁字入詩，當時不滿意他的，罵他做拉丁字彙，請你一繙步愛羅做的詩的藝術，就明白了。童沙爾的詩，誰敢說他不美，不過不是因為用了拉丁字才美，並且這都是雜用外國本國文的關係，也和文俗一致無涉；願你在學理上再分晰一下。

我的魯男子的序幕，承你贊許，實在慚愧得狠。又要我把七座樹林的來歷說明。這個來歷，一說明了，是狠淺薄的，就是暗藏著喜，怒，哀，樂，愛，惡，懼的七情，拿法文譯音來代表的；今遵你的命，寫在下面：『康丹 Content, 斐利安 Furie, 杜樂 Douleur, 孚呂伯梯安 Volupté, 愛美 Amour, 伊團 Hideur, 丹黎勃 Terrible, —— 這個字，該用丹糲 Terreur 當時誤寫 —— 』。我趁此機會，索性把我這部魯男子全書的意義，傾筐倒篋的都告訴了你吧。魯男子是全部人生慘痛的呼號聲；不是一個人的慘痛，是一般人同受的慘痛；不是一時代的慘痛，是無始以來不斷的慘痛；凡是人生造成善和惡的行為，不是自己意志裏的產物，是環境裏压榨出來的紛團兒，我在小意見裏已經說過。但環境有兩種，一種是外現環境，一種是內在環境；外現環境，就是家庭，社會，政治，習慣，禮教，職業，金錢，階級種種，是人人知道的；倘使只有外現環境，沒有內在環境，決不

能構成行為；內在環境，就是喜，怒，哀，樂，愛，惡，懼的七情；外現環境，在你的四圍，一步步的緊上來，那麼內在環境和牠相應，有起反抗的，有受誘惑的，你的靈魂，不知不覺的受了牠們的驅遣，做牠們的奴隸，充牠們的苦工；有時還要得意揚揚地喊著：我有意志！我有能力！我能衝破環境！其實衝破了一個，又進了一個，不是衝破，是變換。就是羅曼羅蘭的大勇主義，主張內在的戰爭，也不過要和環境奮鬥，努力衝突，老實說，何嘗能衝破，僅僅希望倒一個旧環境，換立一個新環境罷了；換來新的好不好，還是個未決的問題。所以尼采主張超人，要在地上造成天國，究竟天國是怎樣一個東西，渺茫得狠；但是人生的願望，浮現在想像上的，總是美妙，一到踏着了現實，便立成醜惡了。我如今且把佻說來做我書的注腳，我說的外現環境，就是五蘊裏的色蘊，內在環境，就是五蘊裏的受和想二蘊，善惡的行為，就是五蘊裏的行蘊，人生的認識，就是識蘊，人生跳不出五蘊，所以也跳不出環境。無論你大英雄，大奸惡，驚天動地的幹，費盡氣力，只得到苦諦，無論你大哲學家，大破壞家，翻江倒海的說，絞盡腦筋，還是偏計所執；本來整個的人生，全是承苦器，我不過把魯男子來做苦器的總模型，在這苦器裏滲漏出來點點滴滴的血淚罷了。

戈恬的鴉片煙管，原名 La Pipe d'Opium，是在 *Romans et Contes* 裏選訊的。你不滿意我欠缺外形的雕斲，又道：『我的訊文，和林畏廬差不多。』外形的雕琢，我不敢自誇，能達到工緻美妙的境地，和琺瑯與螺鈿一般；但体味你的意思，把我比畏廬，好像又說我認得不忠實。一個人最苦不自知，這篇訊文，好歹且不必講，却一字一句都照着原文忠忠實實的逐訊，惟恐失了作者的真面目。不知道什麼地方，訊得不对，請你不客氣的逐項指教，我非常的歡迎。

至其他關於形式方面，我們正在草創，所有編輯，印刷，發行種種，只有父子兩人支撐，實在有些竭蹶，付印又極急迫，自己不滿意的地方就很多，對著讀者諸君，極為抱歉。以後自當勉力改良，務求精美，也極希望同志的扶助，指導，恕我這裏不能一一的答復了。

孟樸先生：

我本來也是一個孽海花的傾倒者，但為了作者許久的沉默，以及時間性的變易，我竟將愛你的愛去愛了別人了。

忽然在上個月報紙上又有你真美善的預告。我不禁臉上現出很驚奇的顏色說：「怎麼失蹤了好久的病夫，忽然又在這幾張紙上出現了？」自從那天起，我便一天天鵲候真美善月刊的出版。

昨天居然按期與我見面了。半個鐘頭將他一口氣看了，我覺得我很有許多話要對你說。不瞞你說，我實在不滿意你用病夫這一個別號。你要知道，這一類的別號，給於現代青年的悲感，是多麼深呀！你自有你的曾孟樸三字在！我想你決不會因了是你的官名，而不願在小說上發表吧？我們研究文學的，自當信任文學要比區區的官高尚得多呢！

在你的小意見中你說：「藝術惟一的要點，不論精神形式，全在調和同一致，在調和同一致裏面，方能顯現美的印象來。」不知你這個定義是根拠了什麼來的。況且照你所謂的一致，恐怕也未必便能達到你的目的。純文言白話的著作很多，未必便都美；莎士比亞等的戲劇有時用散文有時用韻文，却沒有人說他醜。韋沙爾詩中有異國文字，也有他的美點。總之，一致不能說是美，不一致也不能說是醜。我對於如此努力的你，是含著重大的希望的；願你講到學理的文字，務須踏著了實地。

你的魯男子的楔子，真是篇縮影的古史弁。非博學如你，怎能寫得出？尤其是講到那七座大樹林，具見你對於人生有深刻的了解，我想這七座樹林，你一定是有根拠的，（因為你用的似乎是誤音）不知你能否將他們的原文見示？

戈恬的小說，你是知道的，重在外形的雕斲。你的筆實在來得。什麼不也稍注意及此？老實說，你的譯文與林畏廬相差幾何？

願你將譯文的原名並錄。

這是我一些關於真美善月刊的小意見，要是你以為不妨公開，不妨請載入讀者論壇中。

恕我暫時不將我的真名見告。

彭 思

# 病 夫 日 記

## 東 亞 病 夫

『宇宙風』第2期 1935.10.1

(十七年五月二十二日)今天，我開始想記日記了。從前我也曾經做過這種工作，但記的都是些晴雨，客來，訪友，以及日常不相干的表面事情，從沒記內心的愛想。這為什麼呢？（一）是文字的關係，一下筆總要用文言，文言不是能達感情適當的工具。（二）是習慣的關係，我們的社會是虛偽的，文字也一大半是虛偽，決不肯把感情上的印象忠忠實實的寫在紙上。你看最出名的翁文恭日記和李蕓客日記，記下的也不過是些朝政和學問罷了，要在那裏去找他的人生，簡直一片模糊。只為這些日記，都是名臣或名士，搭足架子，預備天下後世人看的。我現在要寫的却不是這樣。全是没有秩序，不成文章，亂七八糟隨便寫的。但是，都是我個性的表現，不論思想或感觸，捉到即寫，也不按定每日，有便寫，沒有便不寫，在我最後的生活史上，留些子痕迹罷了。

真美善半年第一卷的彙編，訂好了，蕪兒拿了來給我看，是布脊，金字，灰色紙面的裝訂，紅色的書頭，共一千多頁，居然成一巨冊。這是我們到上海來後一點小成績。一千多頁裏面，我們父子倆的作品，差不多要居十之六七，也算努力了。好不好另是個問題，然在半年間精神的迹像，無論如何不易消滅。世間那一件事，不是同泡幻一般。回想我近數年的經過，省議會的議長潮是一幕，驅齊擁韓蘇人治蘇的夢想是一幕，輔助陳陶遺想恢復蘇省財政的元氣，又是一幕，當時何嘗不焦心積慮，竭力奮鬥，如今在那裏呢？一古腦兒烟消雲滅，如夢影一般的散了。留在這裏一點兒可把玩的東西，還是掃蕩後一些文芸的紙上空談。這麼說起來秀才人情紙半張，到底是我們的本等，只好空談空談，倒可以自己留些生活的痕迹。

黃謙齋來，帶了萃青送我許多糖食。萃青用三千塊錢盤了稻香村茶食店。這回謙齋來，是替陳夢余的姨太太來尋夢余的。拋謙齋說：夢余討了兩個小，因為太太利害，一個都不敢進房，天天伺候太太吃鴉片烟，太太倒變了左擁右抱。去年一個跟了太太的兄弟跑了，現在只賸一個。夢余和太太逃難搬住上海，叫沒跑的姨娘看家，好幾個月，不通信，也不寄一個錢，那姨太太癩了極，託謙齋來尋夢余說話，謙齋竟打抱不平，特地奔到上海來，問夢余，竟尋了一天，謙齋真是孩子氣，也真算得沒事忙了。

（五月二十三日）昨天把孽海花第三十一回的稿子，做到天亮，總算做完了。想同意珠出去看五點鐘卡爾登的影戲。因為牠的戲題：孽海花，其實名目雖同，另是一齣外國戲，不過被牠動了興致罷了。正要想走，傅彥長同了金屋書店主人，邵洵美來了。

邵洵美，現在也算一個詩家，是邵筱邨的孫，悅如的兒子，我却從沒有見過。他的面孔，清瘦而長，又帶些凹形，差不多是瓦片餅式，和他的父親很相像，若不是先曉得，我會叫出悅如來的。

開首講了些出版界的事情。後來講到文芸界太沒有聯合的組織，何不仿法国的客厅或咖啡館，大家鼓些興會起來。傅彥長道：——這事只怕是法国的特長，他國模仿不來，尤其是我們的中國。客厅的主角，總要女性，而且要有魔力的女性；我們現在可以說一個也沒有；即使有，照目下我們的環境，習尚，也沒有人肯來。

洵美道：——從前本想把郁達夫的王女士，來做犧牲品，那裏曉得這位王女士，也只歡喜和情人對面談心，覺得很好，社交稍微廣大一點，也是不行。

我說——：那麼陸小曼何如？

彥長道——叫他碰碰和，唱唱戲，是高興的；即使組織成了客厅，結果還是被蝴蝶派占優勝，我們意中的客厅，只怕不會實現。

後來，洵美又講起了法国有個蠶俄學會，裏面有閔蠶俄信仰者格來氏，曾做過一部蠶俄文學研究，極有價值。

（五月二十四日）陳季同是我法文的導師，我在真美善雜誌上已經提過多次了。這回因張若谷來，又提起了他。若谷提議像這種世界文學的先驅者，我們應

当替他做一篇文章，表揚一下。這日，張若谷又介紹我到法国圖書館去（Alliance Francaise）翻閱書籍，恰發現了陳季同的作品四種。真是巧遇。今將他的書名，写在下面：

一個支那人描繪的巴黎 Les Parisiens peinte par un Chinois 1 vol.

黃衫客傳奇 Le Roman de l'homme Jaune 1 vol.

祖国 Mon Pays 1 vol.

支那人的劇壇 Le Theatre des Chinois 1 vol.

尚有一種名：Les Plaisires en Chinois（支那人的享樂）沒有看見。Mon Pays 的內容，計文十篇，目錄如下：

1. 支那社会組織 L'organisation sociale de la Chinois
2. 支那的一個貞德 Une Jeaune d'Arc Chinois
3. 支那学生 L'ecolier Chinois
4. 敵公夫人的歷史 L'Histoire de la Duchesse Nien
5. 支那游歷 Voyage en Chine
6. 支那益虫 Les Insects Utiles de la Chine
7. 支那商的教育 L'Education Commerciale en Chine
8. 支那的猶太人 Les Juifs en Chine
9. 支那水利 De l'utilisation des Eaux en Chine
10. 世界的議會 Les Parlements du Monde
11. 支那亭子 Les Pavillon Chinois

支那戲劇，計六卷，卷頭獻給 Mme Marie Talabot 自敘，一卷，戲劇，二卷，著作人，三卷，曲，四卷，類，五卷，脚色与風俗，六卷，幕閉。

（五月二十五日）我又全夜沒有睡，誤了一段莫利愛的青年事蹟，又看了 pierre Louys 一節論文，題目是：莫利愛傑作的著作人，是不是高耐一？這個奇僻的問題，他的意思，是不信是莫利愛自己做的，是高耐一代作的；他的証拋，就是兩點，一莫利愛沒受過高深教育，二莫利愛沒一些遺留的手稿，有的，只有兩張收拋，綴字多錯誤，便斷定做不出假面人，厭世人等諸作品，真算得奇論了。



有人問我道：——魯男子的恋，是不是事實？

——当然是事實。但情節有變換或顛倒，時間不盡同真事物合，這是各小說家自序体的小說的常例，只為所重的在情感，所以写情感处全是真的，幾乎沒些子虛偽。

——齊宛中不用說是實有其人，難道附屬人物如丫鬟阿林，也是真人，事情也是真的嗎？

——是，但不是本鄉人，也不是本鄉的事，是我浪漫史中一段最疚心的事。

唉！這件事，一提到，我心裏總覺怦怦不安。我良心上過不去的事，当然不願面告別人，記在這裏，當我的懺悔吧！

我幼年時，感情極豐富，性欲也極強烈。我和T的戀愛，只為尊重她，始終保守着醇潔，沒有犯她的童貞，這是真的，但我的受苦是大了。記得每早晚相會後，經過一番佯倚纏綿的親暱，沒有不弄到神智迷離的程度。你想，像我那時情欲正盛的時候，受了這種刺激，全身如火一般燃燒，如何過得去呢？在先，只好学着西廂記上指頭兇告了消乏的法子，洩洩一下。心裏終究不滿足。慢慢兒，就想真的試驗了。第一個，是年輕的僕婦，相貌並不好，是胖胖的圓臉，兩頰常是緋紅，像兩顆桃子一般。年紀約十九歲。——我那時只有十六歲，我略略的引誘一二次，竟把她弄得狂了，竟色胆如天的早上到了我床上，這是我第一次性試驗。不多幾日，被母親覺察，把她轟走了。第二回是個鄰女，姿色比較的好，却是她來誘惑我的，我也就來者不拒了。這種行為，當時很自知不對，一做後，無不悔恨，不過一到不可遏抑的時候，不知不覺的又犯了。為了這種事，被T知道，不曉得暗暗吵鬧多少次，常常弄得我遍體鱗傷，然她却能了解我，體諒我，知道是胡鬧，並不動真情。然習慣卻養成了，我一生的浪漫行為，未始不伏根於此。

後來我和T婚姻問題，已絕了望，我病了一場，精神頹唐到萬分。這種舉動，也不發生了。不過終日唉聲嘆氣，過着愁夢光陰。父親那時在京，怕我弄出真禍來，叫我到北京去，應順天鄉試。我一進京，住在常昭館裏。有一天，臨晚出門閒步，忽見斜對門一個大宅子裏，門上貼着都察院徐的門條。走出一個十五六歲垂髻的女子，手裏拿了一個信封似的交給門公，便站在門階上閒看。

我看她長得眉目如畫，膚色雪白，尤其一雙水汪汪的眼睛，竟有幾分像T，不覺呆看住了。我那時T的影象，還印刻在腦裏，一見相貌好些的女子，總覺得

像T。

她被我看得長久也覺得了，頓時把眼光瞟過來，正碰上了，一點不避我，彼此對看了好久，大家笑了一笑。

從此，每天臨晚，我總到門口，她常常出來。記得到第三天晚上，我和她說的話了。

等到第二次進京，我還去訪問，長班告訴我：她在去年上害癆病死了。我聽見這消息，哭了她幾天。我疑心她的病，是不是因憂鬱而起，也沒她去問，直到如今，還是我良心上一件最難過的事呀。她姓林，小名叫杏春，戀裏面的阿林，實在是影射着她。

## 病 夫 日 記

### 東 亞 病 夫

『宇宙風』第1期 1935.9.16

民國二十三年六月八日（註：民國十七年の誤まりである。）

我現在在文學上表現的，都是些生活上的零星回憶，覺得除了回憶，沒有生活；除了回憶，也沒有文學；從前覺得希望是美麗的，現在經歷的多，竟不覺牠美麗了；倒覺得回憶是美麗了。這大概是年齡的關係吧！

未來，是一個妖媚的妓女；常常誘騙你！

現在，是一個醜惡的老婆；常常厭倦你！

過去，是一個飄渺的仙女；常常依戀你！

讀魯迅的野草；魯迅有了進步了，吶喊，徬徨，不過是新式的儒林外史。這一篇却別有風味，過客和楓葉兩篇，尤悽婉可誦，我說：是象徵的影像主義。

七月五日

差不多一個月不記日記了。我回去了一趟常熟，耽擱了半個多月，中間又為趕月刊，沒工夫寫，總之沒有繼續不斷的常性，是我一生的大毛病。

我一回到常熟，大家都勸我離開上海，搬回去住，母親說：上海費用大；姊妹們說：母親年紀大，近來早起總覺頭眩，夜間常要睡不着，應當在家裏侍奉侍奉；朋友們說：家裏有花園，樂得享享清福，幾個從小的老朋友，都老了，大家希望我回來，朝夕過從，結個談侶；人人說的都有理由。但是，我的要上海，到底為了什麼呢？上海是個商場，我在商業上是個驚弓之鳥，不願再做馮婦的了。何必住上海？上海是政治的策源地，我於對政治，是厭倦的了，決定在五年內沒有談政治的可能，何必住上海？上海是個游樂場，我既不想嫖，又不好賭，京戲令我頭痛，大餐也叫我倒胃，跳舞我不會，遊戲場我怕鬧，何必住上海？我所以捨不得上海的緣故，只為了一件事。上海是我國藝術的中心，人才總萃，交換廣博，知覺靈敏，流布捷便，是個藝術的皇都；既想做藝術國裏的臣隸，要貢獻他的忠誠，厚集他的羽翼，發揮他的功業，光大他的榮譽，怎能離開那妙史的金闕呢？然而事實却叫我不能住上海了。這是何等可惱的事！

我回常的第二天，就叫了一隻船，到寶巖去父親墳上祭掃。我兩年多沒來了。一個墳丁，滿頭白髮，皮皺骨出，形容可怕。他若不叫我，我幾乎認不得他。墳上一切都還好，不過中主塚，土有些坍卸，到冬天非修不可。珊門的墳，到還完好。我在祭掃時，心中存想各人的形貌，父親的聲音笑貌，如在目前，珊門的面目，再也想像不出，自亦不解何故，難道相處的日子過短，腦膜上印得不深嗎？然而一想到臨終時一番慘狀，則又使我心中難受，淚潸潸忍不住了。

回來時，順便往游小石洞。洞在寺後，深入地底，中為泉池。拾級而下，愈下愈寒。上蓋危石，石縫中出一朱簾，蟠曲似龍形，壽官拍一照。回來已上燈了。

這回到常熟，我只做了一篇第三十三回的孽海花。敘的是乙未年台灣獨立的事。起先原想從台灣獨立直敘到孫文廣州革命。後來做來做去，總做不好，換了三次稿子，到底只敘了唐文卿七天大總統的事，連劉永福守台南的事，都來不及敘，可見做文章自己也做不了主，筆勢到的地方，就把你原定計畫衝破了；文章尚如此，何況別的事呢？誇張意志自由的，也可以醒悟了。

我因此忽然起了一個念頭，想把孽海花來一氣呵成。我仔細算過，一天只要能做二千字，一個月可做六万字。孽海花如做六十回，除去已做好三十三回，尚

余二十七回，每回一萬字，共計二十七萬字，四個多月便可完工，不必逐回在雜誌上慢慢發表了。

我回家看見一個老僕陳松，樣子已老得不堪。忽然因他我就想起一件小時候的事了。從前我們也有一個老僕，名字却忘記了。他也是一頭白髮也是駝腰曲背，但人是很凶，常要管小孩子的。我小時候淘氣得利害，常常拿了錢和丫鬟們到門口買東西吃，被他看見，輕則說幾句，重則告訴母親，因此吃打的時候也有。我恨極了。有一天，好像他偷了米或是衣服，有一個丫鬟告知我。我就借公濟私的報仇，把這件拳斃了。這個人，就被三叔父罵一頓開斃了。當時我得意非常，好像我打了勝仗一般。看他垂頭喪氣而去，我還對他冷嘲熱諷。後來過了一年多，忽然這個人不知在那裏尋了短見。我一聽見這個消息，直把我嚇得來發抖。我也不曉得他為什麼死的，但是，在我心上，總好像是被我害死的。我夢中也常常見他；一個人獨坐時，眼睛彷彿看見他；這樣的良心不安了差不多有兩三年哩。

昨天下船，走過興隆橋，我忽然感觸了我心上不可癒合的傷痕。

記得我十七歲時，春天，傍晚。我在虛靈出來，要到一個地方，打興隆橋走過，正要下橋時，忽遇 Pin Kin 在對面走來。臉色很不好的向我問道：你往那裏去？我臉紅了，一時答不出來。——我……——我告訴你，請你回家去吧！求你以後少到我們那裏來，只怕要得罪你！

這幾句話，簡直是法堂上死刑的宣告！當時不知道我怎樣捱過去的。

這一段事，是沒人知道的。所以後來的結果，我是老早知道沒有望的了。不過何以弄到如此，其中必定有個緣故，我始終沒有明白。

我昨天午後，三下鐘，到馬斯南路公館。閱來信中，有徐蔚南給我的信，賞嘆瓊海花賽金花與向菊笑戀愛的一段，以為描写得深刻，其實這一段很蹈虛的，只怕是過譽吧。季小波給我的信，想從我做法文的導師，他替我們畫圖案。我歡喜談法文，却不願意為人師，只可以做個研究的同志。胡適之送我白話文學史，余上沅戲劇論。（完）

語堂兄刊行宇宙風，建議給先父出一個紀念特輯，囑我代為編集。先父遺稿，平素他自己不甚愛惜，凌亂雜置，現在給他澈底整理，實覺異常困難。宇宙風發刊之期已屆，稿件整理尚無頭緒，故商諸宇宙風的編者，在本期中先摘錄他日記中的一節暫以應命，下一期將為正式紀念特輯。 虛白附識